



Anritsu Sustainability Overview 2020

Anritsu
envision : ensure

安全・安心で豊かなグローバル社会の サステナビリティ実現に向けた 価値創造を目指して

経営理念

誠と和と意欲をもって、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する

経営ビジョン

衆知を集めたイノベーションで社会のサステナビリティに貢献し
“利益ある持続的成長”を実現する

経営方針

1. 衆知を集めた全員経営でハツラツとした組織へ
2. イノベーションで成長ドライバーの獲得
3. グローバル市場でマーケットリーダーになる
4. 良き企業市民として人と地球にやさしい社会づくりに貢献

アンリツグループ企業行動憲章

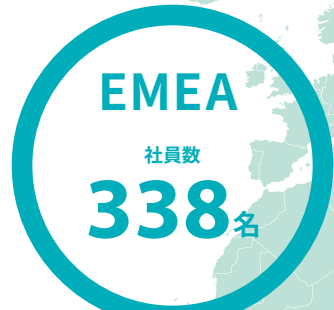
アンリツグループ行動規範

サステナビリティ方針

私たちは「誠と和と意欲」をもってグローバル社会のサステナビリティに貢献することを通じて、企業価値の向上を目指します。

- ① 長期ビジョンのもと事業活動を通じて、安全・安心で快適な社会構築に貢献します。
- ② 誠実な企業活動を通じて、グローバル経済社会との調和を実践します。
- ③ 人と自然が共存する環境経営を推進して、地球環境保護に貢献します。
- ④ すべてのステークホルダーとのコミュニケーションを推進して、強固なパートナーシップを構築します。

At a Glance



EMEA：欧州・中近東・アフリカ



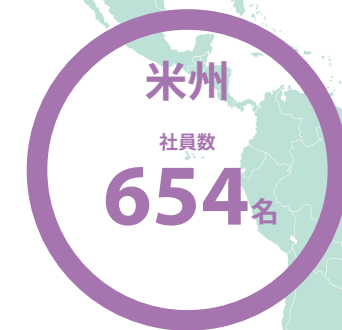
Anritsu EMEA Ltd. (英国)



Anritsu Company (米国)



アンリツ株式会社 (日本)

創業 **1895年**子会社 **42社**

(2020年8月31日現在)

連結社員数 **3,881名**

(2020年3月31日現在)

売上高 **1,070億円**営業利益 **174億円**営業利益率 **16%**当期利益 **134億円**ROE **15%**

※値はそれぞれの項目で四捨五入

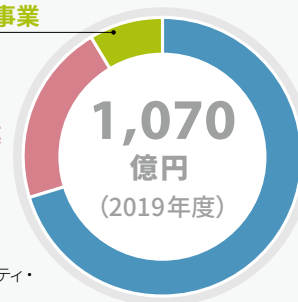
(2019年度アンリツグループ連結)

事業別売上高比率

その他の事業

9%

PQA事業

21%PQA事業：
プロダクツ・クオリティ・
アシュアランス事業計測事業
70%

地域別売上高比率

アジア他

37%

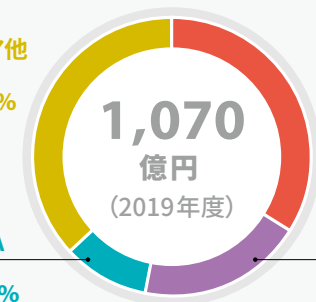
EMEA

10%

日本

34%

米州

19%

Who We Are

～オリジナル&ハイレベル～



5G/IoTをつなげる

モバイル端末やIoT機器、無線基地局向けの測定器を通じて、端末や基地局などの開発・製造をサポートし、確かにつながる5G/IoT社会の実現を支えています。



社会課題の解決に貢献

- メーカー、通信事業者を問わずつながる端末開発
- どこでもつながる基地局の建設・保守



P.009

計測事業

超高速ネットワークをつなげる

光/デジタルネットワークや伝送装置向けの測定器を通じて、伝送信号の波形品質を確認し、超高速ネットワークの実現を支えています。



社会課題の解決に貢献

- 高速伝送装置、データセンタの開発
- 光/デジタルネットワークの建設・保守



P.009

計測事業



安心して口に運べる食品・医薬品づくりを支える

食品・医薬品向けの異物検出機や質量検査機などを通じて、加工食品・医薬品の品質を確認し、健康な生活の実現を支えています。



社会課題の解決に貢献

- 安全・安心な食品・医薬品の流通
- 食品ロスの低減
- 生産効率向上



P.011

PQA事業



Who We Are

～誠と和と意欲～



誠

アンリツグループは、人権、環境などの社会課題に誠実に向き合っています。地球温暖化対策では、自家発電を重視した独自の活動として、再生可能エネルギー発電設備の導入を進めています。

和

アンリツグループは、グローバルに事業を展開しています。世界各国の社員が連携して、最新の市場動向やニーズ、製品、ソリューションの知識を深め、お客さま対応の充実を図っています。

意欲

アンリツグループの製品は、「はかる」技術開発の追求により高度化する情報通信社会の実現を支えています。ものづくりの現場では、生産革新、技能向上へのあくなき挑戦が、高品質な製品の生産を支えています。

サステナビリティ経営で「安全・安心な社会」を実現いたします

代表取締役 社長 グループCEO 濱田 宏一

社会のサステナビリティに貢献するため、地球環境保護に一層努力し、事業を通じて社会課題の解決を図ることにより、「安全・安心な社会」を実現し、お客さまをはじめ、ステークホルダーの皆さまの理解・協力を得て、長期にわたり持続可能な会社となるように進めてまいります。

安全・安心な社会に向けて

アンリツグループは「誠と和と意欲」をもってグローバル社会のサステナビリティに貢献することを通じて、企業価値の向上を目指すサステナビリティ方針を2018年4月に制定しました。

この方針のもと、SDGsと関連づけた目標を設定し、事業においては、「産業と技術革新の基盤につながる安全・安心なインフラ整備を支える技術・製品・ソリューション」を提供し、その結果として持続可能な社会の建設に関わる産業の創造とイノベーションを促進していくことをグループ全体の取り組みとしています。ESGにおいては、「地球環境保護」、「社会との調和」、「ガバナンス」のテーマで、対応すべき重要課題を掲げています。

この活動を適切に開示し、ステークホルダーの皆さまの理解や期待を企業価値向上に結び付けていくことを経営の重要課題としております。

社会革新の基盤となる5G通信を支える

新型コロナウイルス感染症防止対策として、ビジネスや医療、教育、行政などでもオンライン化が加速している今日、経済活動や生活を維持するために欠かせない安

全・安心で強靱なネットワークインフラの開発・製造が喫緊の課題となっています。また経団連のSociety 5.0で重要なデジタルトランスフォーメーション(DX)は、さまざまなデジタル技術の進化により人々の生活をより良いものへと革新していくことであり、これも通信を基盤としています。

アンリツは、1895年の創業以来情報通信機器のパイオニアとして社会の発展を支え、「はかる」をコア技術として、情報通信システムの発展に貢献してまいりました。5G(第5世代移動通信システム)のさらなる技術革新やDXの進展は、アンリツグループにとって高い社会価値を発揮できる分野であり、これからも社会革新の基盤となる通信インフラの構築を支えてまいります。

生命・健康を護る

アンリツグループは、生命、健康の源となる食品分野でも異物混入防止の検査機や原材料の過不足のない生産とその管理を自動化できるソリューションを提供し、安全・安心な食品の流通、食品ロスの低減に貢献しています。さらに「医薬品の安全」を目指して、品質保証ビジネスの強化を進めています。また、医用機器用の光モジュール、人命に関わる自然災害発生時に迅速な対応に

つなげることができる映像監視システムなども提供しています。

アンリツグループは、2020年以降の持続的な成長を見据えたBeyond2020に取り組んでいます。このプランにおいても、社会の安全・安心を支えることを明示しています。今後も社会課題から事業を発想し、アンリツらしい取り組みで貢献してまいります。

Beyond2020に向けて始動

- 2020年以降の持続的な成長
- 高収益企業になる。営業利益率18%
- 事業の安定化を支える新たな事業創発



温暖化防止へ、CO₂排出量削減に独自の取り組み

地球温暖化による気候変動問題は、大規模自然災害や食糧生産状況の悪化による飢餓や貧困などを引き起こし、社会の持続可能性の脅威となることから、温室効果

ガス(CO₂)排出量の削減に企業として努力せねばならないと考えています。

アンリツグループの事業の特性上、地球環境への影響度や負荷はさほど大きくありません。それでも会社の意志として温暖化防止に積極的に取り組むために担当部門と議論を重ね、再生可能エネルギー(再エネ)自家発電比率を2030年頃までに30%程度まで高める長期の目標を策定し、外部公表いたしました。これは再エネの電力証書などの購入よりも、自家発電を重視した取り組みです。自らが再エネ設備を導入して発電し、自社消費することで、再エネの直接的な拡大に貢献していこうという独自の考えで進めていくものであり、SDGsのゴールやターゲット達成につながると考えています。

社員の安全・安心の維持と事業継続の両立

新型コロナウイルス感染症は世界中に拡大し、人類が一致団結して封じ込めに尽力せねばならない大きな課題です。アンリツグループも保有している設備・技術・備品などでウイルスと闘っている人々に何らかの貢献ができないかを検討し、微力ながら対応してまいりました。

アンリツグループは、人との接触機会の抑制や飛沫感染防止など、感染症から社員を守る対策に万全を期すことを最優先課題として、事業活動を行ってまいりました。社員、事業を守るという観点からは、自然災害への備えも

欠かせない取り組みです。2019年度も台風19号の影響によりアンリツグループの郡山第一工場の浸水被害、取引先さまの被災などサプライチェーンにも気候変動の影響が顕在化いたしました。過去の浸水経験も生かし、BCM(事業継続マネジメント)を徹底していたことから、約2週間で早期回復し製品出荷を再開できました。

通信の維持、食品・医薬品の安全確保という重要な社会的使命を担うアンリツグループにとって、感染症や自然災害のリスクを軽減、取り除くことは経営者の責任であり、引き続き努力を惜しまず取り組んでまいります。

サステナビリティ経営の推進

「誰一人取り残すことなく」を肝に銘じ、人権の尊重、ガバナンス強化、地球環境保護など、社会からの要請に応え、社会課題の解決に貢献できる会社として皆さまに認知され、支持されるようにグループ全体をより良い方向に導くことが私の使命です。

性別、国籍を問わず多様な価値観を持った人財が集い、切磋琢磨しながら成長し、進取の気性で新たなことに積極的にチャレンジする風土を定着させ、「最先端の技術力で社会の発展を支える会社」「働きやすくやりがいのある仕事ができる会社」を作り上げ、誠と和と意欲をもってグループの力をグローバルかつ最大限に発揮できるように進めてまいります。

サステナビリティ経営が目指す未来

経営理念

経営ビジョン

経営方針

サステナビリティ
方針

事業を通じて解決する社会課題

アンリツグループの 事業全体

安全・安心なインフラを整備し、
持続可能な社会の建設につな
がる産業の創造とイノベーショ
ンの促進に貢献する



計測事業

- 強靱なネットワーク
インフラ整備



PQA事業

- 食品ロスの低減
- 品質保証



情報通信事業

- 強靱なインフラ構築
- 自然災害の防災／減災



センシング&デバイス事業

- 強靱なインフラ構築
- 健康的な生活の確保



社会の要請に応える課題 (ESG)

地球環境保護の推進

持続可能な消費と生産の企業活動で
持続可能な社会づくりに貢献する

- 再エネ自家発電比率向上
- CO₂排出量(エネルギー消費量)／
水使用量の削減
- 高品質で環境に配慮した
製品の開発／製造
- 環境負荷を低減するSCM*



グローバル経済社会との調和

多様な人財とともに、個人が成長し
働きがいのある職場づくりに貢献する

- 人権と多様性の尊重
- 人材育成
- 労働安全衛生
- 人権に配慮したSCM



ガバナンスの強化と充実

透明・公正かつ迅速・果敢な意思決
定とリスクマネジメントで誠実な企業
活動を行う

- コーポレートガバナンス
- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進



※サプライチェーンマネジメント

コミュニケーションの推進による共有価値の創造

全てのステークホルダーとともに協働して
共有価値の創造に貢献する

- ステークホルダーへの情報提供と
コミュニケーション



(計測事業)

通信用半導体メーカー

通信モジュールメーカー

スマートフォンメーカー

無線基地局メーカー

通信事業者

自動車メーカー

IoT端末メーカー

家電メーカー

航空宇宙関連

ほか

(PQA事業)

加工食品メーカー

医薬品メーカー

ほか

お客さま

(情報通信事業)

金融関連事業者

教育機関

自治体

通信事業者

ほか

(センシング&デバイス事業)

医療機器メーカー

通信事業者

通信部品メーカー

ほか

サステナビリティ経営が
目指す未来

安全・安心で豊かな グローバル社会の発展

アンリツは、お客さまとともに事業を通じ
て社会課題の解決に貢献します。

そして、アンリツが重要と考える社会の要
請に応える課題 (ESG) に向き合い、ステ
ークホルダーの皆さまとのコミュニケーショ
ンを重視し、グローバル社会のサステナビ
リティの発展に向けて取り組みます。

貢献領域

通信
インフラの
高度化

労働力不足
の解消

情報格差
是正

食品
ロスの
減少

地球温暖化
防止

食の安全・
安心確保

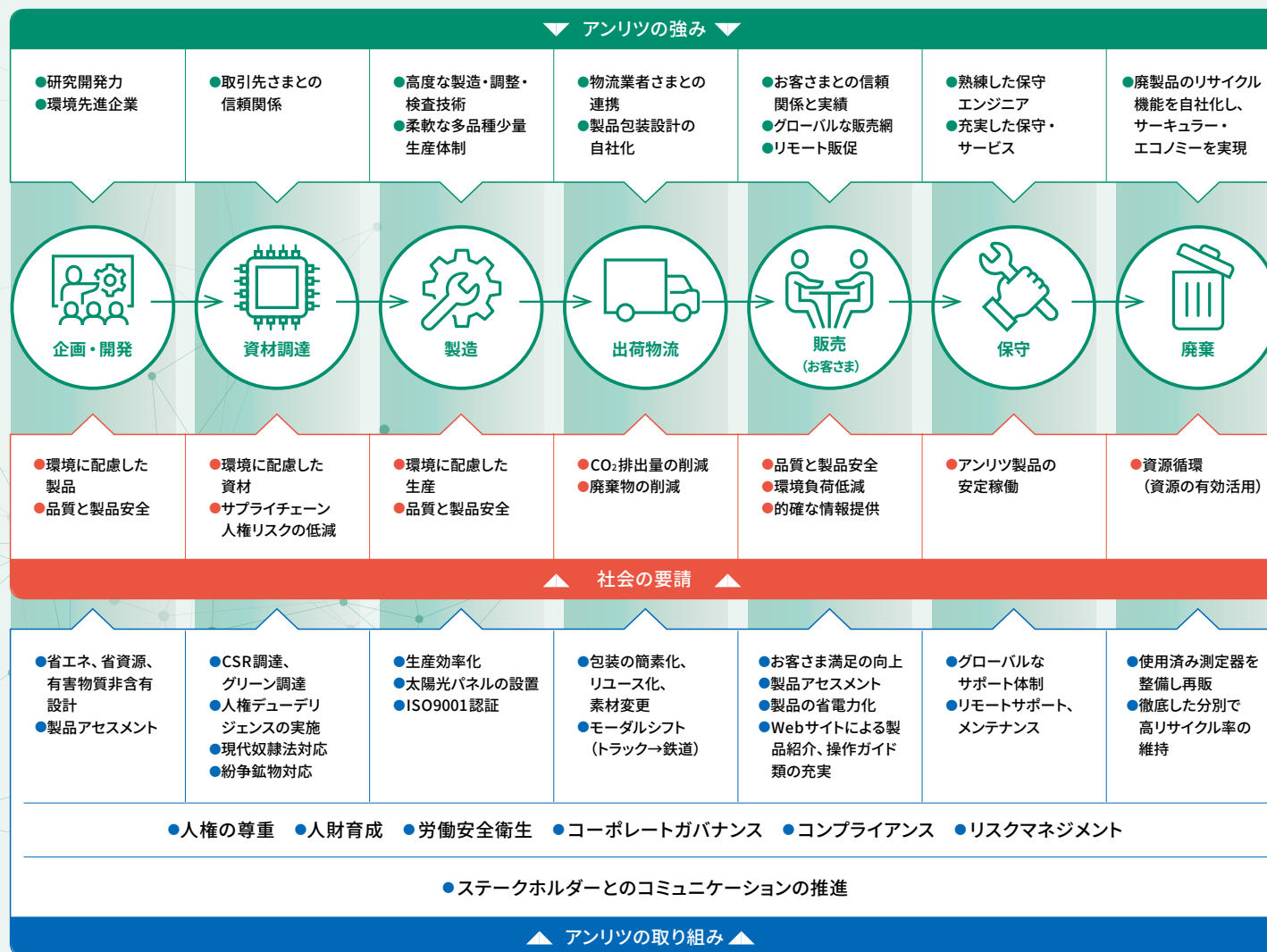
自然
災害時の
減災

自動車の
安全
高度化

通信
インフラの
高度化

アンリツのバリューチェーンと事業を支える強み

安全・安心で豊かな社会づくりを支えるアンリツは、製品の企画・開発から廃棄に至るプロセスで、環境配慮や人権尊重などの社会の要請に応え、ステークホルダーと協創しながら価値を高めるバリューチェーンを形成しています。



事業を通じて解決する社会課題

アンリツグループの事業全体

安全・安心なインフラを整備し、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献する



計測事業

- 強靱なネットワークインフラ整備



通信市場向け計測ソリューション

PQA事業

- 食品ロスの低減
- 品質保証



加工食品、医薬品の生産ライン向け品質保証ソリューション

情報通信事業

- 強靱なインフラ構築
- 自然災害の防災・減災



帯域制御装置、画像監視システム

センシング&デバイス事業

- 強靱なインフラ構築
- 健康的な生活の確保



光デバイス、高速電子デバイス

計測事業

先進的な計測技術で最適な測定ソリューションをいち早くお届けすることを使命に、お客さまとともに安全・安心な通信インフラを整備し、持続可能な社会の建設につながる産業の創造とイノベーションの促進に貢献します。

社会課題・顧客ニーズ

デジタル革新で
新たな社会の変革を期待

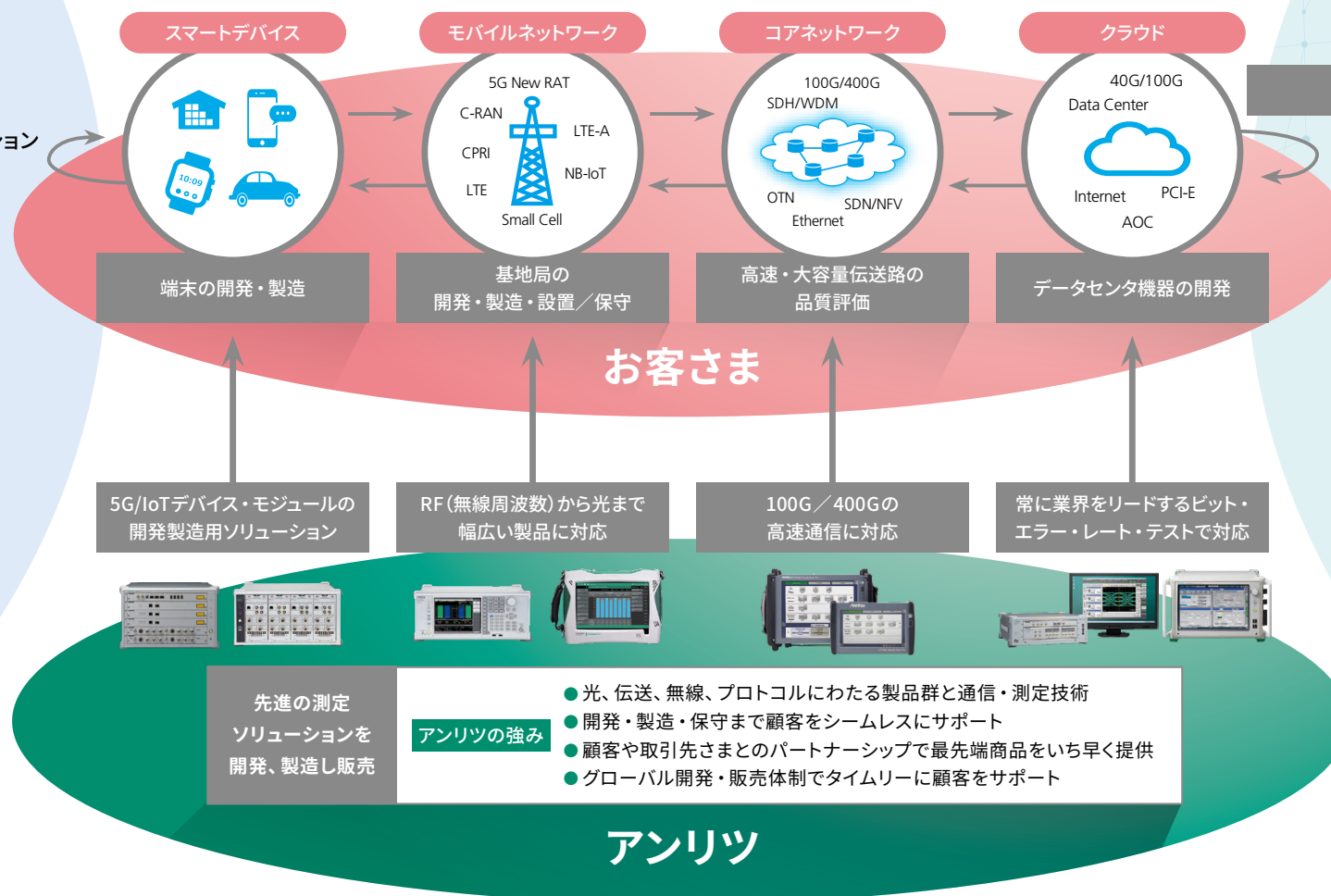
社会課題

- デジタルトランスフォーメーション
- 通信インフラの増強
- テレワーク環境整備
- 交通事故の減少
- 産業の効率化
- 地方格差の解消

顧客ニーズ、関心事

- 5G最新技術に迅速対応
- グローバルサポート
- 優れた投資対効果
- 環境負荷低減など

5Gインフラの開発・製造・建設・保守をアンリツの測定器で評価・検査



未来社会

5Gの特長を生かした社会
課題解決ソリューションで、
豊かな未来を創造

5G

高速・大容量 多数同時接続
超低遅延

工場



遠隔監視

農業



生育支援

建設



遠隔制御

自動車



自動運転

医療



遠隔医療

5Gスマートフォンの開発を支えるアンリツの計測事業

ス マートフォン(以下、スマホ)は、日々のコミュニケーションには欠かすことのできない存在となっています。最新の5Gスマホは、4Gよりもさらに速く、たくさんのデータ量をリアルタイムにやり取りすることができるとされ、今後その特長を生かした新しいサービスやアプリケーションの創出が期待されています。

5Gスマホにも従来のスマホのように、国際的なルール「無線通信規格」が規定されています。この「無線通信規格」に基づいた厳格な検査に合格しなければ、世の中に出すことができません。アンリツは、その検査に必要な試験システムを業界最速で開発・製造し販売しました。スマホメーカーや通信キャリアなどのお客さまにお使いいただくことで、5Gスマホの早期市場投入を支えています。

右の図は、数百パターンに及ぶ試験項目を一気に実施可能な、5Gに対応した自動試験システムの一例です。

用語説明

1 GCF (Global Certification Forum)

携帯端末のグローバルな相互接続性を保証するため、ネットワークでの運用基準や携帯端末の認証試験基準を定めている団体。

2 OTAチャンバ

空間を介して電波の送受信を行い、スマホの性能を測定するため、外来の電波を遮断し、内部では電波の反射を防ぐ構造の暗箱。

3 ミリ波

周波数が30～300GHzの電波を言うが、日本の5Gで割り当てられている27.0～29.5GHzも業界ではミリ波帯と呼ばれている。

4 スプリアス

設計上意図した信号以外の不要な周波数成分。

開発中のスマートフォンは、GCF¹ 認証を取得した試験装置で性能を確認し、「無線通信規格」の検査に合格しなければならない。

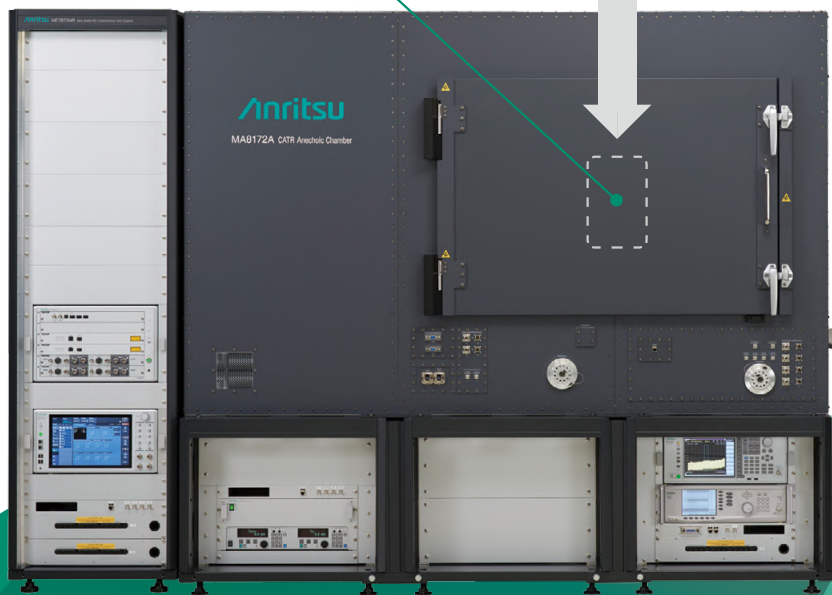
電波暗箱(OTAチャンバ²)の中にスマホを入れて試験を行う。ミリ波³試験には測定技術の高度化が必要。

開発中の
5Gミリ波対応スマホ



ミリ波スプリアス⁴ 試験のGCF認証を世界初で取得(2020年4月時点)したアンリツのこの試験装置で性能を確認し、早く新型スマホを世に出そう!

お客さま



アンリツの5G用試験システム

New Radio RF コンフォーマンステストシステム ME7873NR

PQA事業

PQA事業は、食品や医薬品産業に向けて生産ラインの品質検査工程を自動化するソリューションを提供しています。
ここでは事業の8割以上を占める食品産業の社会課題にフォーカスし、アンリツの取り組み事例をご紹介します。

社会課題・顧客ニーズ

安全で安心できる
食品の安定供給

社会課題

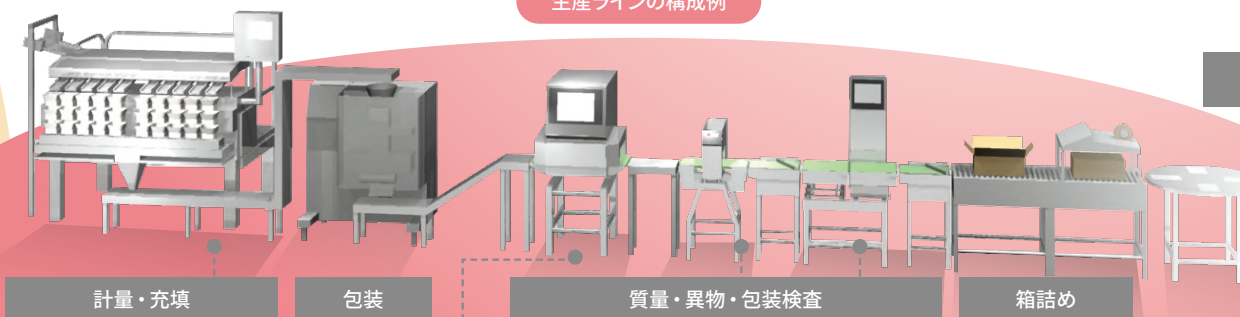
- 健康でおいしい食品の安定供給
- 安心して口にできる品質の保証
- 食品ロスの減少
- 労働力不足の解消

顧客のニーズ、関心事

- 高速かつ高精度な検査
- 衛生性と清掃のしやすさ
- メンテナンスの容易さ
- 生産ラインの自動化とリモート監視
- データの活用による生産性の向上

アンリツの品質保証ソリューションで品質検査工程の自動化を実現

生産ラインの構成例



お客さま



高速高精度、
高信頼の検査機を
開発、製造し販売

アンリツの強み

- 高速かつ高精度なインライン品質検査技術
- 多様な生産ラインに検査機を導入する適応力
- 国内の充実した保守体制と熟練した保守エンジニア
- 国内の食品検査市場での実績とトップクラスの市場地位

アンリツ

未来社会

食品の品質保証の
高度化を通じて

- 安全で安心して暮らせる社会の実現
- 食品ロスの少ない持続可能な社会



品質保証の高度化で食品ロスの低減に貢献するアンリツのPQA事業

人口の増加と経済の発展に伴い食料需要が急激に増加するなか、食品が食されることなく廃棄されてしまう「食品ロス」がSDGsのターゲットに掲げられるなど社会問題化しています。このような中、多くの食品メーカーが「おいしさの追求」や「安全・安心の保証」に加えて「食品ロスの低減」を自社の重要課題に挙げています。近年は食品の加工流通に関わるさまざまな企業が互いに協力して食品ロスの低減に取り組む機運が高まっています。

殺菌や保存の技術そして包装技術の進歩に伴い、加工食品の消費期限は大幅に伸び、食品ロスの抑制につながっています。一方、消費期限が長い食品は長期間市場や家庭に留まるため、ひとたび回収廃棄を余儀なくされるとその規模は非常に大きくなってしまいます。食品メーカーにとって、消費期限の延長は「食品ロス」を抑える反面、商品回収時の損失を増大させるリスクでもあり、以前にもまして厳格な品質保証が必要になっています。

アンリツの品質保証ソリューションは、生産段階での不良品の発生や市場からの回収リスクを最小限に留める手段として以前から活用されています。デュアルエネルギーセンサや人工知能など最先端の技術を搭載したX線検査機は、検査対象物の重なりなど、従来の検査機では良否の判断が難しくラインから排除していたケースにも的確に対応します。良品判別精度を高めて生産収率を向上させることで、食品ロスのさらなる低減に貢献しています。



情報通信事業

先進技術と高い信頼性の通信品質向上ソリューションと映像監視ソリューションを提供し、お客さまとともに安全・安心で快適な社会の実現に貢献します。

社会課題・顧客ニーズ

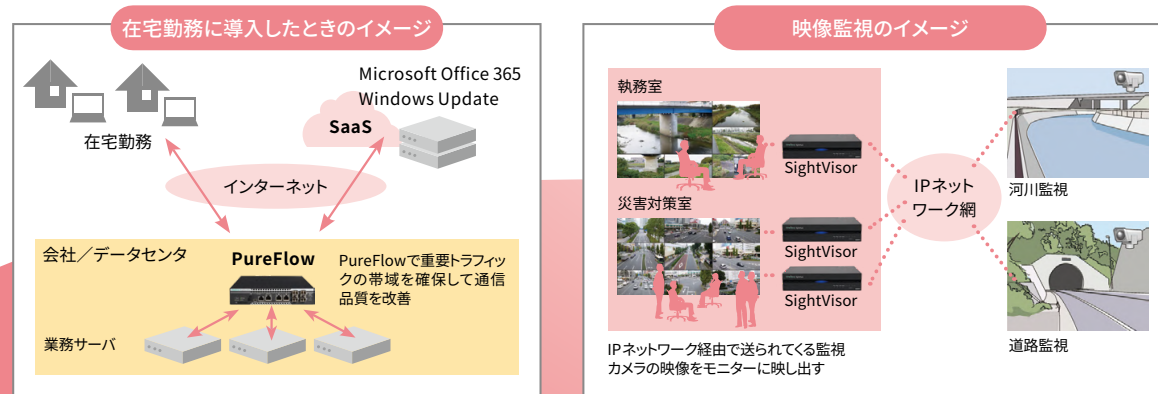
デジタル革新で
新たな社会の変革を期待

社会課題

- 在宅勤務、オンライン授業増加による通信量の急増
- 豪雨、地震などの自然災害の増加

顧客ニーズ、関心事

- 企業内の通信障害(遅い、つながらない)を簡易に解決したい
- 監視現場の状況を画像でリアルタイムに的確に把握したい



PureFlowWS1を導入し、通信帯域の優先制御を行うことで、在宅勤務者の増加による業務サーバへのアクセス不安定を解消する。

広域に設置された河川・道路監視カメラの映像を災害対策室のモニターに高精細画像で表示。複数地点の情報を多角的に把握し、防災、減災につなげる。

お客さま



帯域制御装置 PureFlowWS1
通信品質改善、ネットワーク安定化を実現



情報閲覧装置 SightVisor2
ハイビジョン映像を9画面表示可能

高信頼な
通信ネットワーク機器
を開発、製造し販売

アンリツの強み

- 独自技術とソリューション提案力
- 豊富な納入実績

アンリツ

未来社会

いつでも、どこでも、ストレスなくつながる快適な通信環境が実現



自然災害に対する防災、減災対策が進化し、誰もが安心して暮らせる社会が実現



センシング&デバイス事業

さまざまな産業製品の核となる光デバイス、超高速電子デバイスを世界中に供給し、お客さまとともに人々の暮らしの利便性を高め、安全・安心で快適な社会の実現に貢献します。

社会課題・顧客ニーズ

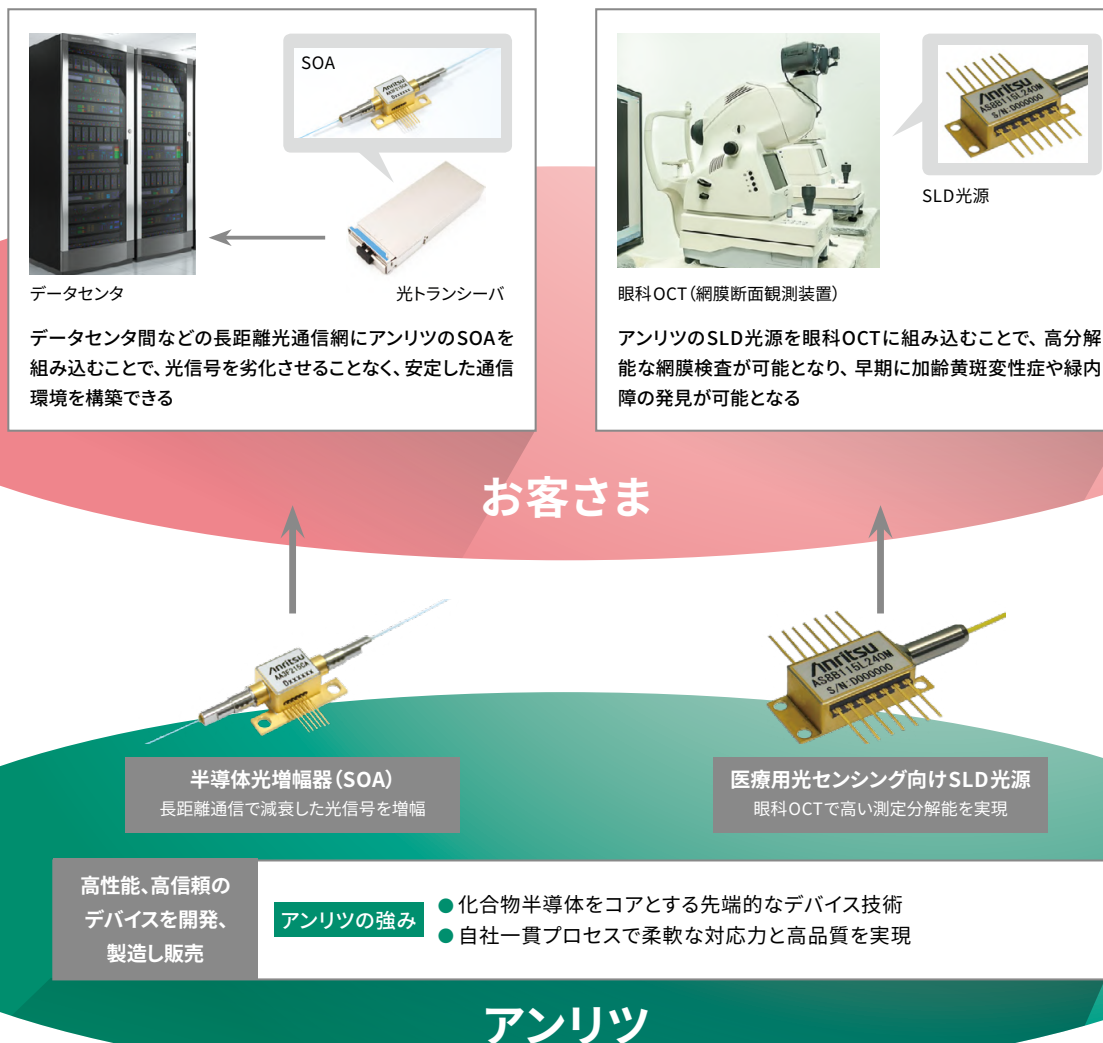
デジタル革新で
新たな社会の変革を期待

社会課題

- データ通信量の増加に耐えうる強靱な通信インフラ構築
- 高齢化に伴う眼の疾患患者の増加

顧客ニーズ、関心事

- 通信インフラを構成する光ファイバに流れる光信号品質を確保したい
- 高分解能な網膜状態検査装置を開発したい



未来社会

高速・大容量通信を活用したデジタル革新により、社会課題の解決を実現



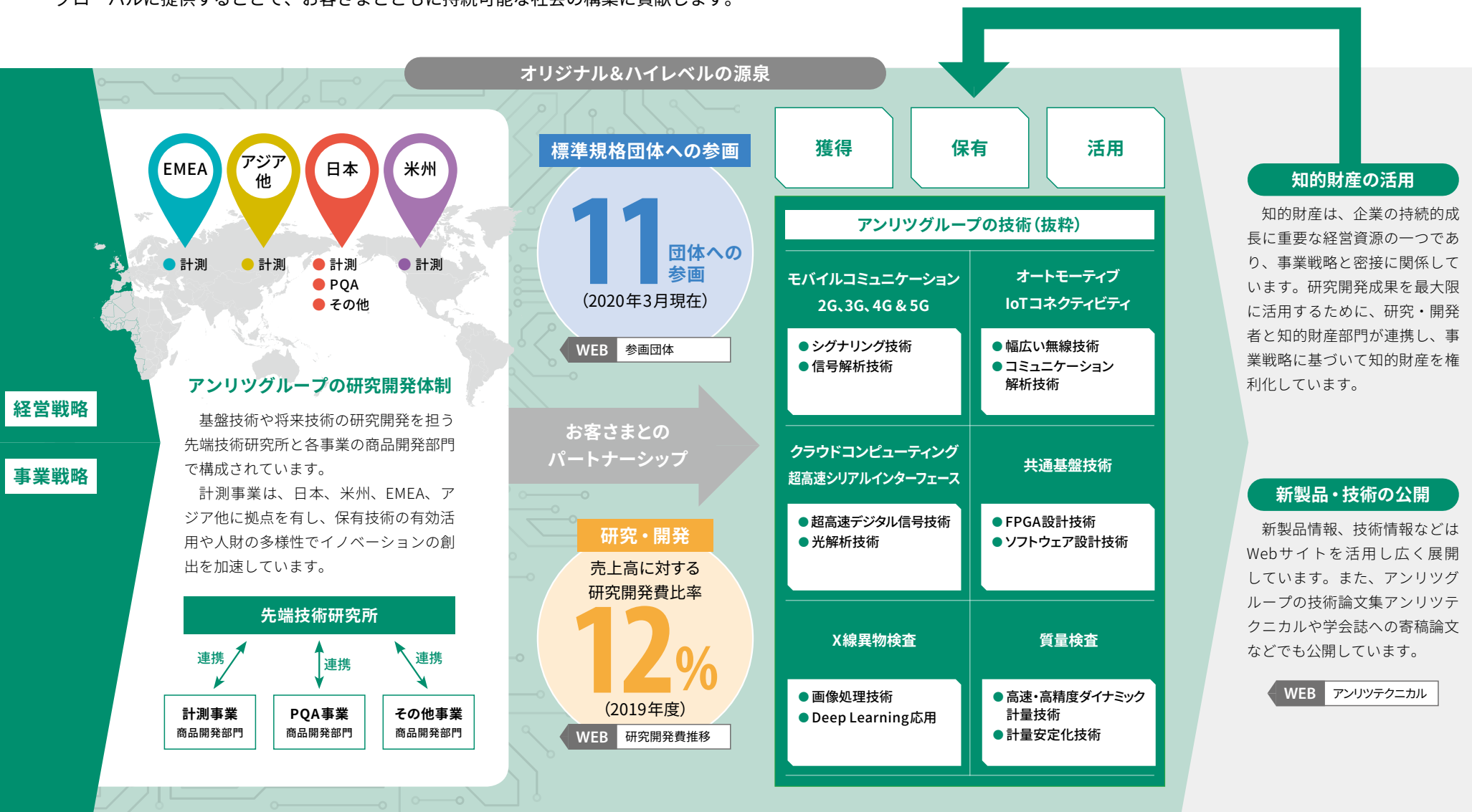
医療の進化により、あらゆる年齢の人々が健康に生活できる社会を実現



アンリツブランドを支える研究開発と知的財産

アンリツグループは、先進技術の獲得、保有、活用を通して“オリジナル&ハイレベル”な商品やソリューションを開発し、グローバルに提供することで、お客さまとともに持続可能な社会の構築に貢献します。

戦略的な知的財産マネジメント



サステナビリティ推進体制

MESSAGE

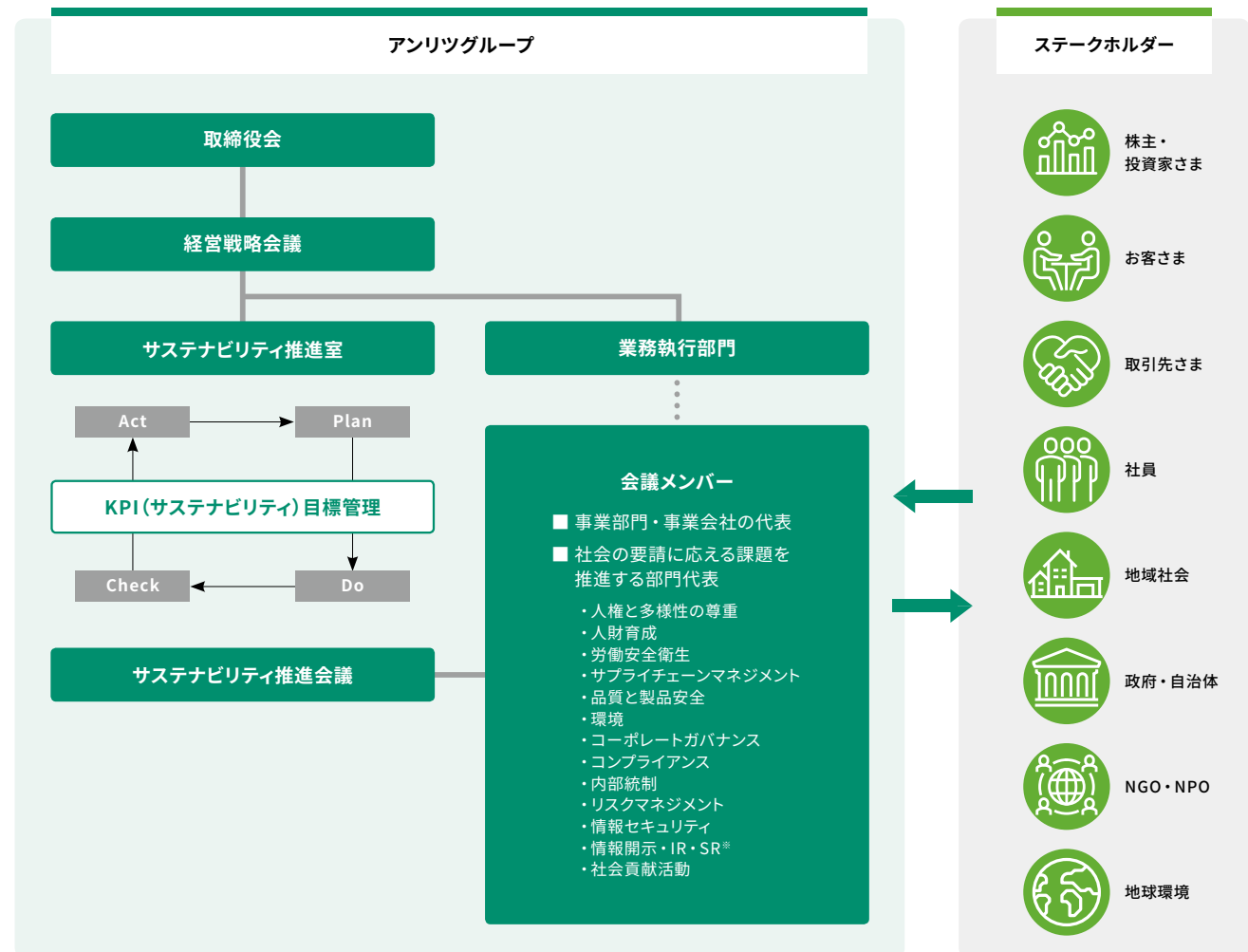


常務理事
サステナビリティ推進室長
高木 章雄

国際社会の共通目標であるSDGs達成に向け、アンリツは未来を見据え、事業を通じてお客さまとともに社会課題解決に貢献する活動とESGの社会要請に応える活動を進めています。技術革新の基盤となる通信を支える測定器、食品ロス低減にも効果のある品質保証検査機の開発、そして、アンリツ独自の地球温暖化対策や人権配慮などをテーマに取り組んでいます。

活動において重きを置いているのが、「自分ごと化」です。業務や家庭生活において、どのように社会課題解決につなげるかを、社員一人ひとりが自ら考えて行動を起こすことが重要であり、エシカルな企業を目指してまいります。これらの活動は、アンリツの経営理念やサステナビリティ方針にある「誠と和と意欲」をもって進めており、グローバル社会のサステナビリティに貢献することによって企業価値の向上、そして持続可能な会社へとつながっていくものと確信しています。

アンリツは、経営理念、経営ビジョン、経営方針および2018年4月に制定したサステナビリティ方針に基づき、サステナビリティ活動を積極的に展開しています。



※IR：Investor Relations、SR：Shareholder Relations

ステークホルダーへの情報提供とコミュニケーション

アンリツは、さまざまなステークホルダーに透明・公正かつ迅速・果断な意思決定と

適切かつタイムリーな情報開示を行うことによって、ステークホルダーとの良好なパートナーシップを構築します。

ステークホルダー	取り組みの状況	コミュニケーション機会の一例、関連サイト
株主・投資家さま 	対象期間：2019年4月～2020年3月 ● 海外IR3回（北米、香港、シンガポール）、国内カンファレンス5回参加、また北米・アジアの投資家との面談を積極的に実施 ● 国内投資家249件、海外投資家224件の面談を実施 ● 株主・投資家の声を取締役会、経営戦略会議へフィードバックおよび幹部職向け社内イントラで開示	▶ 決算説明会 WEB 株式・社債・格付け情報 ▶ 株主総会 WEB 情報開示方針 ▶ IR 個別面談 ▶ 海外投資家に向けたIR活動 ▶ 経営層が参加する情報開示委員会の開催 ▶ 各種調査への回答
お客さま 	● 安全性・品質・先進性の高い製品・サービスの創出、適切な製品・サービス情報の提供、問い合わせ窓口の充実など ● パートナーシップによる開発推進	▶ お客さま相談窓口、Webサイトでの情報提供
取引先さま 	● 事業方針や資材調達方針の説明、表彰などを行う取引先さま懇親会、情報交換会の実施 ● 取引先さまとともに、グリーン調達を推進 ● 取引先さま製品展示会、セミナー、技術交流会などのビジネス機会創出 ● 取引先さまから改善・要望などをご提案いただく「パートナーQU活動」の推進 ● 社員との面談に関するご意見などをいただく「面談時アンケート」の実施	▶ 取引先さま懇親会 ▶ 情報交換会 ▶ 取引先さま製品展示会 ▶ パートナーQU活動 ▶ コラボレーションルームの設置 ▶ 面談時アンケート
社員 	● 社員満足度調査の実施 ● 倫理アンケートの実施 ● ヘルプライン（相談窓口）の設置 ● 自己啓発の支援	▶ 社員満足度調査 ▶ 倫理アンケート ▶ ヘルプライン（相談窓口）の設置 ▶ 各種研修
地域社会 	● 「青少年教育との連携」、「地域社会への貢献」、「環境保護活動（生物多様性保全）」を3本柱とした地域密着型の社会貢献活動を展開	厚木市「おもしろ理科教室」、厚木市少年サッカー大会「アンリツ杯」、厚木市民団体主催「ソフトボール・ドッジボール大会アンリツ杯」、厚木市児童相談所への未使用靴下の寄付、郡山市教育委員会後援「ラジオ製作体験教室」開催、富士山「緑の募金の森」など WEB 社会貢献活動
NGO・NPO 	● 災害発生時の情報共有 ● 認定NPO法人ジャパン・プラットフォーム（JPF）への寄付	▶ 「令和元年東日本台風」支援金

温室効果ガス削減目標がSBTイニシアチブから承認

近年、地球温暖化による気候変動により世界中で甚大な自然災害が起っています。事業を通じて社会課題の解決に取り組むアンリツグループは、この課題に対し積極的に寄与するため、2030年に向けた温室効果ガス削減目標を策定しました。この削減目標は、2019年12月にSBTイニシアチブから承認され、パリ協定が目指す「2℃目標」の達成に科学的な根拠のある水準であると認められました。目標達成のため、再生可能エネルギーの自家発電・自家消費に取り組めます。



サステナビリティレポート 2020 P.027 気候変動・エネルギー 目標

再生可能エネルギーの取り組みPGRE30

地球温暖化を鑑みたアンリツ独自の活動として、「Anritsu Climate Change Action PGRE 30*」を策定しました。これは2018年度のアンリツグループの電力使用量を基準に、2030年ごろまでに再生可能エネルギー（以下、再エネ）の一つである太陽光発電パネルの導入を推進し、自家発電比率を0.8%から30%程度まで高めることを目指しています。国が計画する2030年の再エネ

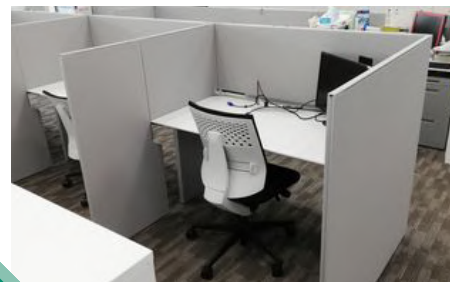


比率22~24%（うち太陽光発電7%）を大きく上回る野心的な取り組みではありますが果敢に挑戦し、サステナブルな社会づくりに貢献していきます。

* PGREはPrivate Generation of Renewable Energy(再エネ自家発電)の略であり、「30」は達成時期の2030年ごろと自家発電比率目標値の30%程度を意味します。

サステナビリティレポート 2020 P.028 気候変動・エネルギー Anritsu Climate Change Action PGRE30の策定

新型コロナウイルス感染症対策と事業継続



社員の感染予防を優先しながら、営業・保守、製品の提供を通常通り継続しています。テレワークについては、感染状況に速やかに対処するため、適用率を段階的に調整する仕組みを運用しています。長期化に備えて新しい生活様式(新常態)を取り入れ、パーテーションの設置など、さまざま

な施策を実行し、社員の安全・安心の確保と事業継続に取り組んでいます。また新型コロナウイルス感染症の対応を行っている厚木市立病院に、備蓄していたDS2防塵マスクを寄贈しました。

サステナビリティレポート 2020 P.081 事業継続マネジメント 感染症対策 主な取り組み

ESG ハイライト

アンリツは、ESGにおいて重要であると考える課題に向き合い、グローバル社会のサステナビリティの実現に向けて取り組んでいます。

テレワーク中のお客さまをサポート



アンリツWebサイトより

テレワークの普及拡大を受け、オンラインによるお客さまサポートに注力しています。計測事業ではWeb展示会を開設し、5Gや超高速ネットワークなど最先端の通信システムに対応したソリューションを紹介しています。またリモートデモやウェビナー、製品の操作ガイドなどを特設サイトで展開しています。PQA事業でも、上記同様の取り組みに加え、検査機の監視と障害時の復旧がリモートで行えるソリューションを提供しています。



ENVIRONMENT



SOCIAL



GOVERNANCE



STAKEHOLDERS COMMUNICATION

Anritsu

アンリツ株式会社

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名 5-1-1

TEL: 046-223-1111

<https://www.anritsu.com>